

ものづくり大学植栽マップの制作

八代研究室
00512094 椎名 恭平

1. はじめに

ものづくり大学には、中央広場をはじめとして様々な植栽があふれており、近隣住民の散歩ルートにもなっている。実際、大学キャンパス内における植栽メンテナンスのインターンシップ中にも、散歩中の人々から植栽に関する質問をされることが多かった。そこで、インターンシップでの経験を活かし、一般の人にもわかりやすい植栽マップの制作を行うと共に、その特徴や現状の問題点についても明らかにした。

2. 敷地ゾーン分けおよび植栽調査(図1,表1)

図1および表1に示す通り、敷地を8つのゾーンに分け、それぞれ植栽調査を行った。これらの図表から、キャンパス内の約50%に何らかの植栽が施されていることが分かる。

3. 植栽表記方法(表2)

本制作では、植栽の種類を常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹、落葉広葉樹、低木寄植、生垣、竹類、下草、地被類の9種類に分けて表記する。

植栽表記については、既存の表記方法では一般の人には分かりにくいというデメリットがあったため、既存の表記に色付け(表2内表記欄網掛)をした、視覚的にわかりやすい表記方法を使用した。

4. 植栽マップ制作および分析(表2,図1,2,3)

4-1. 植栽マップ制作

調査した結果を基にマップを制作していく。

今回は通常バージョン、夏バージョン、冬バージョンの3種類のマップを制作した。植栽表記に色付けをしたことで、季節の変化をマップ上で感じる事が可能となった(図2)。

また、マップのメインであるZone A,B,Cを見渡すことができる3地点をビュースポットとして記し(図1内View spot)、その地点から撮影した2枚の

写真を図3に示す。

4-2. 植栽分析(図1,表2)

表2から、全樹種の6割以上がZone A~Dに集中しており、Zone E~Hはスダジイ、アラカシ、シラカシ、クヌギの4種類の樹木を中心に構成されていることが分かる。これは、庭園等の見せる植栽や防風の為の植栽、敷地を区切る為の植栽等の用途の違いからくるものであり、近隣住民の散歩ルート(図1点線部分)とZone A~Dが一致していることから、そのことがうかがえる。

次に、私見ではあるが、マップ制作中に気がついた本大学の植栽に対する問題点および改善案を以下に挙げていく。

- ・生垣によって閉鎖化されたような印象をうける中央広場の生垣を取り払い、境界線を曖昧にすることで開放的な広場にする(Zone B)。

- ・日陰の少ないセンターモールに枝幅の大きい落葉樹を植樹することで夏に涼しく、冬に暖かい雰囲気を出せる(Zone D)。

- ・風が吹き抜けるものづくりの道に枝幅の大きい常緑樹を植樹し、冬場の北西風を防ぐ快適な道に。

- ・殺風景で四季を感じにくい敷地北西側だが、サクラの苗木が成長することで四季を感じやすい華やかな印象に転換される(Zone E)。

5. おわりに

ものづくり大学には、日本庭園や中央広場等の素晴らしい植栽があるにも関わらず、それほど多くの人に注目されていないのが現状である。

本制作を行ったことで、様々な人々がものづくり大学構内の植栽に対し、少しでも興味を持つきっかけになればと思う。

【謝辞】

本制作を行うにあたり御指導をいただいた宮島秀夫先生にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

